

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

2021(令和3)年度

研究開発実施報告書

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への
包括的実践研究開発プログラム

研究開発プロジェクト

「パンデミックの ELSI アーカイブ化による感染症にレジリエ
ントな社会構築」

*Archiving the Ethical, Legal, and Social Issues in Pandemic Responses towards
Building an Infectious-Disease-Resilient Society*

2022(令和4)年5月31日

研究開発期間

2021年10月～2025年3月（3年6ヵ月）

研究代表者／Principal Investigator

児玉 聡

京都大学大学院 文学研究科

KODAMA Satoshi

Professor, Kyoto University, Graduate School of Letters, Department of Ethics

パンデミックの ELSI アーカイブ化による感染症にレジリエントな社会構築

■概要：

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックに対する政府の対応は、人々の生活の隅々にまで影響を及ぼしている。このような公衆衛生的危機に際して、日本や海外諸国はこれまでどのように対応し、また今後どのように取り組むべきなのか。本プロジェクトでは、①COVID-19 を中心とした公衆衛生的危機における倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)及びそれへの対応について調査し、②論点を整理してアーカイブ化すると共に、③これらの成果を関与者と共有することにより、トランスサイエンス問題に対する人文社会科学系研究の社会実装の方法論を提示する。

■参画・協力機関：

京都大学、東京大学、早稲田大学、東北大学、日医総研、神戸薬科大学、明治学院大学

■キーワード：

COVID-19、パンデミック、公衆衛生、ELSI

Archiving the Ethical, Legal, and Social Issues in Pandemic Responses towards Building an Infectious-Disease-Resilient Society

■Summary:

The government's response to the new coronavirus (Covid-19) has affected every corner of people's lives. How well or poorly have Japan and other countries responded to such a public health crisis, and how can we do better in the future? In this project, we will: 1. Investigate the ethical, legal, and social issues (ELSI) in public health crises, including but not limited to Covid-19, and the responses to them. 2. Organize and archive the issues. 3. Present a methodology for the social implementation of humanities and social sciences research on trans-scientific issues by sharing and discussing these results with those involved, namely researchers, policymakers, the news media, and other people.

■Joint R&D Organizations:

Kyoto University, Tokyo University, Tohoku University, Waseda University, Kobe Pharmaceutical University, Meiji Gakuin University, Japan Medical Association Research Institute

■Key words:

COVID-19, pandemic, public health, ELSI

1. プロジェクトの達成目標

今般の COVID-19 のパンデミック(世界的大流行)は、日本を含めた世界中の国々で公衆衛生的危機(public health emergency)をもたらした。感染症のパンデミックは、感染拡大による重症者や死亡者を生み出すだけでなく、パンデミックを阻止または収束させようとする保健・医療、科学・技術、および法・政策の対応が、医療資源配分の問題や差別・偏見の問題、また人権やプライバシーの制限の問題など、さまざまな倫理的・法制度的・社会的課題(以下、ELSI)をもたらす可能性がある。すなわち、パンデミック収束に向けた取り組みは、社会科学も含めた広義のサイエンスの問題であるが、その取り組みによって生じる ELSI は、優れたトランスサイエンスの問題だと言える(右図)。今後発生しうる感染症にレジリエントな社会を構築するには、これらの ELSI を予め想定して取り組むことが不可欠である。



このような ELSI について一例を挙げると、感染症対策の一つにワクチンがあるが、その開発から実際の接種までの間には、臨床研究における研究倫理の問題(誰が研究参加者になるか、早期承認は認められるか、ヒューマンチャレンジ研究は正当化できるか等)、各国及び国内でどのように分配するか、また市民の間でのワクチン接種の優先順位やワクチンの特許問題をどうするか、といった多くの ELSI が生じうる。これらの課題について、日本および世界の主だった国々がどのように取り組んだのかをアーカイブしておくことは、次のパンデミック発生時に必ず役立つと考えられる。

そこで、本プロジェクトの目標は、現今のパンデミックを収束させるために日本及び他国で行われてきた保健・医療、科学・技術、及び法・政策上の対応が生み出した ELSI 並びに課題解決への取り組みを整理しアーカイブすることを通じて、感染症対策に伴って生じうる諸問題とその解決策について一覽性の高い基礎資料を作成することにより、将来のパンデミック発生時により倫理的な政策立案を可能とすることである。そして、この試みを通じて、トランスサイエンス問題に対する人文社会科学系研究モデルの開発を行い、あるべき ELSI 研究の姿や社会実装の方法論を構築する。

2. 研究開発実施内容・成果の概要

今年度は、下記の三つの項目について研究開発を実施した。尚、以下の三項目は並行して行い、それぞれの研究から得られた成果を随時班内でフィードバックしながら、見玉が統括し研究を進めた。

■項目 1 : 国内外の COVID-19 パンデミック対応における ELSI の抽出と検討

2021 年度は、日本国内に関して、新聞・雑誌記事データベース、学術文献データベース、内閣府を始めとする公的機関のウェブサイト等を用いて、重要な ELSI 課題の抽出・整理を行った。また、海外諸国に関しては、新聞・雑誌記事データベース、学術文献データベース、政府、公的機関、大学、シンクタンク等の信頼できるウェブサイトを用いて、ELSI に着目し情報を整理した。

以上の結果に関しては、各種資料の翻訳・紹介をウェブサイト上で公開しただけでなく、国内外の学会においてワークショップなどを企画し、発表、論文投稿を行うことで、成果を公開した。さらに、若手研究者らとともに国際ワークショップを開催し(「COVID-19 とデー

タ倫理」、および、Technologies in the Covid-19 Pandemic: A Transnational Dialogue between Germany and Japan (TechCO))、上記の成果の一部を広く国際的に公表し、議論を行った。こうしたワークショップでの報告のいくつかについては、ウェブサイト上で公開するだけでなく、編集の上、英語で出版する予定である。

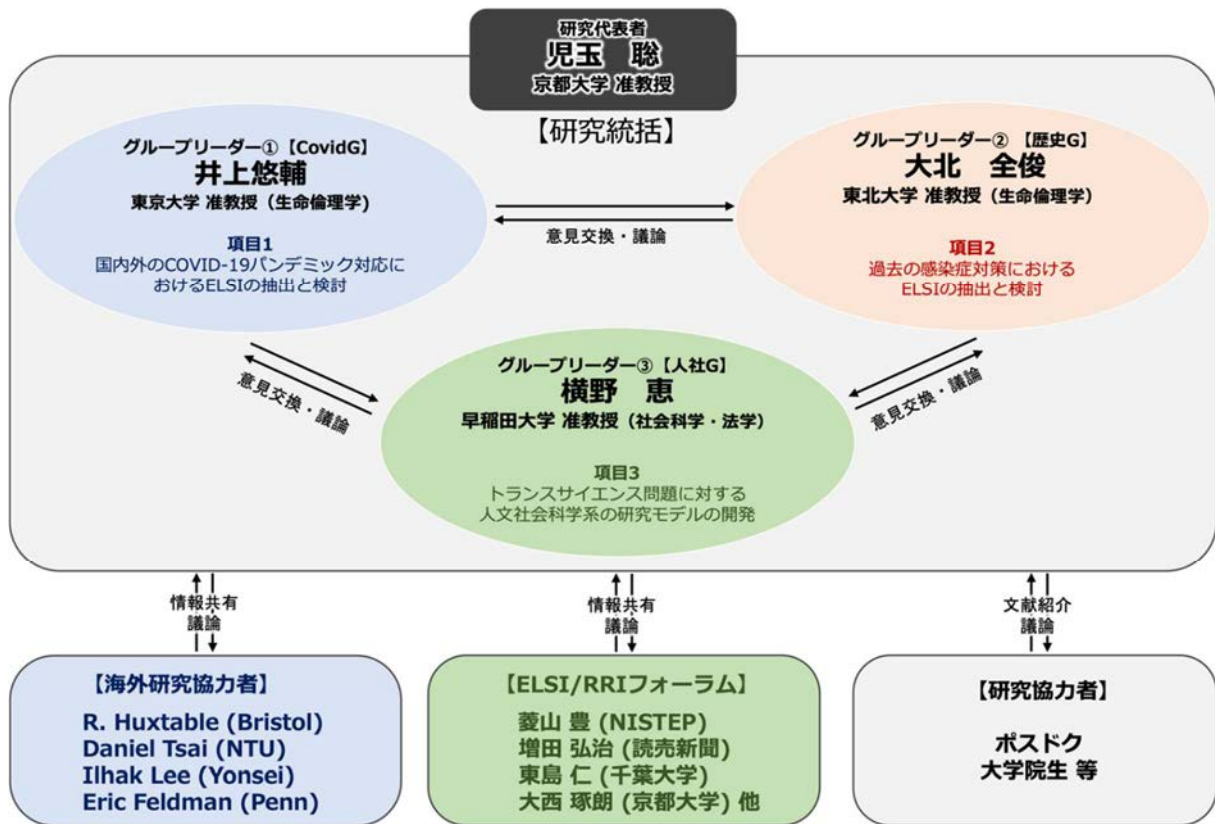
■項目 2：過去の感染症対策における ELSI の抽出と検討

2021 年度は、主に厚労省及び内閣府などの国主体で開催されている感染症対策に関する審議会の議事録を調べながら、日本の感染症関連法がどのような議論に基づき、どのように規定されることになったのか、調査を開始した。また、項目 1 と関連して、中国からの留学生の協力を得ながら、中国の感染症関連法に関する調査を開始し、どのような状況において議論が行われ、その結果、どのような法整備がなされたのか、歴史的な観点からの調査を開始した。これらの調査の結果に関しては、一覧性の高い資料として一般の人々にも理解しやすい形で整理し、ウェブサイト上で随時公開していく。

■項目 3：トランスサイエンス問題に対する人文社会科学系の研究モデルの開発

2021 年度は、本研究のロゴの作成、Twitter アカウントの開設・運営を行い、パンデミックや公衆衛生に関するニュースや記事さらには論文を、一般に広く発信した。また、ELSI/RRI について造詣の深い研究者やメディア関係者、URA 等に声をかけ、「ELSI/RRI フォーラム」を 2 回ほど開催し、ELSI/RRI 研究として、今まで何が議論されてきたのか共有しながら、未来の ELSI/RRI 研究はどうあるべきなのか議論した。このフォーラムの記録は、YouTube や Podcast で公開するために現在編集作業中であり、編集が終わり次第、速やかに公開する予定である。さらに、アーカイブの専門家、SNS を用いたデータ分析の専門家、防災学の専門家など、本研究に深く関係する異分野の専門家とも積極的に交流する機会を持ち、トランスサイエンス的課題に対する適切な研究体制の構築、さらには人文社会系研究者の今後の研究モデルの提示を行うべく、議論・検討を重ねた。最後に、ELSI/RRI 研究のあるべき姿に関して、広く市民のレベルでの議論を促進するために、サイエンスライターやウェブサイト設計業者の協力を仰ぐべく、業者の選定やスケジューリングを進めた。以上のような研究班の外部のアクターとの協働は、2022 年度以降も継続する予定であり、今まで以上に効果的で効率的な情報発信につなげたいと考えている。

3. 研究開発実施体制



〈実施体制図〉

4. 今年度までの活動実績

4-1. 研究論文

(1) 国際誌

- Kodama S, Campbell M, Tanaka M, Inoue Y, "Understanding Japan's response to the COVID-19 pandemic" *Journal of Medical Ethics*, 2022; 48: 173. doi.org/10.1136/medethics-2022-108189 (査読あり)
- Inoue Y, "Relationship between high organ donation rates and COVID-19 vaccination coverage" *Frontiers in Public Health*, in press. 2022年3月 (査読あり)
- Kitabayashi A, Inoue Y, "Factors that lead to stagnation in direct patient reporting of adverse drug reactions: An opinion survey of the general public and physicians in Japan" *Therapeutic Innovation & Regulatory Science*, in press. 2022年3月 (査読あり)

(2) 国内誌

- 児玉聡 (2021) 「COVID-19 パンデミックと公衆衛生倫理の三つの課題」『生命倫理』日本生命倫理学会, 31(1), 4-11. (査読あり)

- 田中美穂、「COVID-19 パンデミック下におけるアドバンス・ケア・プランニング実践が提起する課題の整理-北米・英国における議論を中心に-」、『医療事故・紛争対応研究会誌』、2021; 14: 22-31 (査読あり)

4-2. 総説・書籍など

(1) 国際

- 該当なし

(2) 国内

- 該当なし

4-3. 講演・発表

(1) 招待講演

- Satoshi Kodama, (14 March 2022) “Ethical challenges of the Covid-19 pandemic: a Japanese perspective” Digital Technologies in the Covid-19 Pandemic: A Transnational Dialogue between Germany and Japan (TechCO). (Online, Keynote Speech, Invited), (国内および国外)
- 児玉聡 (2022 年 2 月 24 日)「医療資源の配分」『集中治療と臨床倫理、一般社団法人日本集中治療医学会』オンライン (国内)
- 児玉聡 (2022 年 3 月 18 日)「緊急事態における医療資源の配分」『第 49 回日本集中治療医学会学術集会』オンライン (国内)
- 児玉聡 (2022 年 3 月 26 日)「医療の倫理と公衆衛生の倫理: Covid-19 ワクチン接種に関する医療従事者の意識を例にして」『医療自己・紛争対応研究会第 16 回年次カンファレンス』オンライン (国内)
- 井上悠輔 (2022 年 3 月 24 日)「「コロナ条例」をめぐる検討の紹介」『コロナ ELSI ナイト～みんなで倫理的法的社会的課題を考える～』オンライン (国内)
- 大北全俊 (2021 年 10 月 31 日)「感染症対策とその根拠となる法規範についての倫理的検討」『感染症とパンデミック (シンポジウム)、第 74 回関西倫理学会大会』オンライン (国内)
- 大北全俊 (2021 年 11 月 20 日)「自粛・行動変容と統治」『感染症の統治を再考する (ワークショップ)、日本法哲学会 2021 年学術大会』オンライン (国内)
- 大北全俊 (2022 年 3 月 14 日)「セルフ・ケアという視点から」『デジタルプラットフォーム時代におけるヘルスケアの再定義 (シンポジウム)、KGRI 2040 独立自尊プロジェクトシンポジウム』(国内)

(2) 口頭発表

- 児玉聡 (2021 年 12 月 5 日)「緊急事態の倫理」『京都生命倫理研究会』オンライン (国内)
- 田中美穂 (2021 年 11 月 27 日)「COVID-19 が終末期医療にもたらした影響——日本と英米における共通点と相違点——」『公募シンポジウム「5 COVID-19 と終末期医療——日本、韓国、台湾と英米の比較を通して——」、日本生命倫理学会第 33 回年次大会』オンライン (国内)
- 田中美穂 (2022 年 3 月 25 日)「COVID-19 がアドバンス・ケア・プランニング(ACP)にもたらした影響-日本と英米における共通点と相違点の検討-」『医療事故・紛争対応研究会第 16 回年次カンファレンス』オンライン (国内)

- 鍾宜錚 (2021 年 8 月)「台湾における集中治療のトリアージ制度—COVID-19 パンデミック時の対応と課題—」『日本学術会議哲学委員会いのちと心を考える分科会主催公開シンポジウム「コロナ禍におけるトリアージの問題—世界の事例から日本を考察」オンライン (国内)
- 鍾宜錚 (2021 年 11 月 27 日)「COVID-19 が終末期医療にもたらした影響—台湾の法制度への挑戦と課題—」『公募シンポジウム「COVID-19 と終末期医療—日本、韓国、台湾と英米の比較を通して—」日本生命倫理学会第 33 回年次大会』オンライン (国内)
- 洪賢秀 (2021 年 11 月 27 日)「COVID-19 が終末期医療にもたらした影響-韓国の「延命医療 決定法」の諸課題-」『公募シンポジウム「COVID-19 と終末期医療—日本、韓国、台湾と英米の比較を通して—」日本生命倫理学会第 33 回年次大会』 オンライン (国内)

(3) ポスター発表

- 該当なし

4-4. WEB・プレス発表・メディア (1) Web サイト

- JST-RISTEX RInCA プログラム プロジェクトページ：
<https://www.jst.go.jp/ristex/rinca/projects/jpmjrx21j3.html>
- プロジェクト Web サイト：
サイト名：「パンデミックに取り組む応用哲学・倫理学：哲学と ELSI 研究のためのアーカイブ」
<URL> : <https://www.pandemic-philosophy.com/>
- プロジェクト Twitter アカウント：
アカウント名：@pandemicphilos1
<URL> : <https://twitter.com/pandemicphilos1>
- プロジェクトニュース・情報発信 Twitter アカウント：
アカウント名：@pandemethics
<URL> : <https://twitter.com/pandemethics>

(3) プレス発表

- 該当なし

(4) 報道・投稿

- 新聞記事：『朝日新聞 アピタル』 (2021 年 10 月 16 日) 朝刊「「責任逃れ」した国のコロナ対策 だらだら続く闘い、第 6 波も有効か」(大北全俊)
：『朝日新聞 アピタル』 (2022 年 2 月 26 日) 朝刊「救命の優先順位、誰が決めるのか 公衆衛生倫理の観点から考える」(児玉聡)
- Web 記事：該当なし
- テレビ番組等：
ジャパンエフエムネットワーク「OH!HAPPY MORNING」10 月 19 日 (火)「ワクチン未接種者の不利益解消のために求められることとは」(児玉聡)
<<https://audee.jp/program/show/27266>>

4-5. 会議・イベント

- オンライン・シンポジウム：児玉聡・横野恵 (2022 年 3 月 7 日)「COVID-19 とデータ倫理」オンライン (20 名程度) (国際) (「SciREX 事業「イノベーションを支えるデータ倫理の形成」との共催)

- 概要： COVID-19 の感染拡大に伴うデジタル機器を用いた接触追跡技術がはらむ倫理的問題を、国際的に比較しつつ広く議論・検討した。

4-6. 知的財産権

- 該当なし

4-7. 受賞

- 該当なし

4-8. その他

- 資料紹介： Sou Hee Yang, “Legal Immunity Measures During The COVID-19 State of Emergency” (抄訳、石原諒太、大隈楽、「新型コロナウイルス感染症の緊急事態時における法的免責措置」)
- 資料紹介： Sou Hee Yang, “The Crisis Standards of Care in the US: Applications & Implications” (全訳、北爪智佳子、杉村文、「米国における危機医療水準：応用と法的な意味合い」)
- 論文紹介： 田中美穂、「論文紹介： Covid-19 パンデミック下における死や死別、悲嘆の経験が英国の新聞紙上でどのように報じられていたかの分析」(論文： Selman LE, Sowden R, Borgstrom E. “ ‘Saying goodbye’ during the COVID-19 pandemic: A document analysis of online newspapers with implications for end of life care” *Palliative Medicine*, 2021; 35(7): 1277-1287. doi:10.1177/02692163211017023)
- 翻訳： 田中美穂、伊沢亘洋、杉村文、訳、「OECD「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対応の政府評価から得られる最初の教訓： 知見の統合」(報告書： OECD Policy Responses to Coronavirus (COVID-19), *First lessons from government evaluations of COVID-19 responses: A synthesis*)
- 翻訳： 伊沢亘洋、内藤淳之佑、訳、「WHO コンピテンシーフレームワーク： インフォデミックマネジメントに対応できる人材の育成」(報告書： WHO, *WHO competency framework: Building a response workforce to manage infodemics*)